



瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1

ミサの時間：月曜日-土曜日 6:20am (「朝の祈り」に続いて)
日曜日 7:00am、8:30am、9:30am



平和の元后

主任司祭 小西 広志 神父

8月は、いのちと結びつく特別な時期です。一方で、いのちの躍動があります。植物は強い陽の光を受けて成長します。夏休みの子どもの歓声は、いのちを喜ぶ賛美の歌声のようです。しかし、その一方で、いのちの終わりを考えないわけにはいかないのも8月です。盂蘭盆会があります。亡くなった方々の霊を鎮めるために花火大会があります。そして、8月15日に敗戦の日を迎えます。もうすでに75年以上も過ぎましたから、先の大戦を経験した方々は少なくなっているでしょう。それでも、戦争の犠牲になられた方々と戦争に巻き込まれていのちを失っていった多くの方々のことを想います。そして、二度と争いがありませぬようにと念じないわけにはいきません。また、かつてわたしたちの国がアジアの人々にたくさんの迷惑をかけてしまったことのゆるしを願わないわけにはいきません。

ところで、8月15日は聖母の被昇天のお祝い日です。20世紀は二度にわたる大きな戦争によって大地が荒廃し、多くの人々が傷つきました。そのただ中で教会は平和のためにマリアさまに祈り続けたのです。最初の世界大戦では世界の平和を願って、マリアさまに「平和の元后」という称号で呼びかけました。その後「平和の元后」はマリアの連願の中に組み入れました(1917年)。二度目の世界大戦の折には戦争で傷つき、荒廃した全世界と全人類をマリアの汚れなきみ心にささげると教会は宣言しました(1942年)。争いを通じて疲れ、悲しんだ人々の祈りを通じて平和のマリアさまの姿が教会の中に少しずつ形づくられていったのです。

無数の人々によるマリアさまへの祈りのおかげで戦争が終わり、平和が実現していきました。しかし、平和が決して長続きしなかったのは、戦後の社会を生きられた皆さまの方がよくご存知のことでしょう。そんな頃に平和と人類の未来を見すえて「聖母の被昇天」は教会によって宣言され、祝われるようになったのです(1950年)。

歴史学では、平和とは人類が戦争をしないつかの間の期間と定義づけられていると聞いたことがあります。争い、戦い、傷つけるのは人類が行う当然で不可避な出来事だと考えているからでしょう。そうなると、平和とは滅多にない特別な状態となってしまいます。しかしながら、わたしたちの信仰に照らして考えてみると、平和とは神さまとの豊かで深い関わりの中に人類が生きている状態を指すと思います。ですから、平和の反対語は戦争ではありません。平和の反対語は孤独、それも神さまとの関わりを断ち切った孤独だと思います。

「天の元后」と教会はマリアさまを呼んできました。「元后」とは女王さまのことです。死後、天にあげられたマリアさまは、主イエス・キリストのあがないのわざに結ばれています。復活された主イエスが神の栄光の姿を現しているのと同じように、マリアさまは主イエス・キリストの姿に似た者とさせられました。この事実は戦争という罪に悩み苦しむ人類にとって希望となります。つまり、戦いの中でいのちを失っても、戦いに疲れて惨めな姿になっても、人間はマリアさまのように天にあげられ、栄光の姿へといつか変えられていくからです。そんなマリアさまの美しさを「聖母の被昇天」では称えます。

天の国で御父の右の座におられる主イエス・キリストは、人類の救いのために執り成してください。それは地上に平和をもたらすための愛のわざです。主イエス・キリストの傍らにあってマリアさまは人類の代表として、つまり「元后」としてすべての被造物と共に祈っておられるのです。女王とは君臨するためにあるのではなく、人々のために母のように気づかいを表し、祈るからです。「聖母の被昇天」のお祝い日から8日目の8月22日に教会は「天の元后」をお祝いします。祈ってくださっている母、マリアさまに心を合わせて祈るのです。

人間の力では全世界に平和をもたらすのは無理です。わたしたちの平和への小さな祈り、マリアさまへ平和を願う祈りを通じて、神さまから平和がもたらされるのです。平和の元后、マリアさまに祈ってまいりましょう。